

歴史学習において、自己有用感を高め、深い学びを実現するための授業の工夫

—スモールステップを意識した資料読解・協働学習を通して—

特別研修員 地理歴史 新井 悠子（高等学校教諭）

生徒の実態

- ・直面に取り組む一方、思考力・判断力・表現力を用いる課題や、価値判断を迫る課題の取組に課題が見られる。
- ・協働学習において、役割を果たしたり、コミュニケーションを取ったりすることに苦手意識がある。



教師の願い

- ・社会的な見方・考え方を獲得し、学びを深めてほしい。
- ・他者と協働しながら自己有用感を高めてほしい。

実践事例 歴史総合C（2）「第一次世界大戦と大衆社会」（3）「経済危機と第二次世界大戦」

手立て1 スモールステップを意識した資料読解

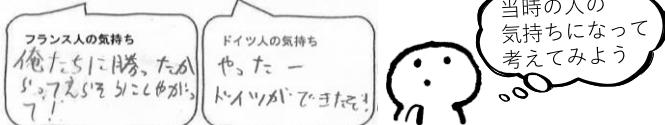
段階的な学びで達成感をもたせながら、読解力・表現力を向上させる。

Step1 一つの資料を読み取り、単語穴埋め・選択による表現

この風刺画は、橋の真ん中に（アメリカ）の石が入っていないことで、橋は（強い・もろい）ということを表している。

Step2 一つの資料を読み取り、短文で表現

戦前、ドイツ帝国成立を宣言するドイツ皇帝の戴冠式



Step3 複数の資料を読み取り、抽象化して表現

以上のことから、国際連盟の問題点は、
・協調性がない
・加盟した国が自国の主張をなんとして
ごもとおさせようとしている
と考えられる。

Step4 根拠資料を選び、問い合わせに対する自分の考えを表現

Goalの答え（資料に基づく自分の態度と、その理由）

資料A、Bから、ドイツ人のことをよく考へてくれていることと、困っているドイツ人は寄り添おうとしてくれていることが分かる。ただ、資料B、Cをよく読むと「殺されてしまうかもしれない」という恐怖を感じた。
抵抗すれば殺され、かと言って全面的な肯定もしたくない。自分にできることは何もなさうなので「何もしない」を選んだ。

生徒の振り返り

資料読解について

三つの資料から、戦勝国の中でも特にヨーロッパ諸国が主導していることが分かる。彼らにより、負けた国や肌の色が違う国が下に見られていることは、現代にも通じる問題点だと思う。



学びの深まりが見られる部分

成果（○）と課題（●）

- 資料読解の精度と表現力が向上した。歴史的事象について複数の視点から捉えたり、現代とのつながりを考えられたりするようになり、**学びの深まり**が見られた。
- アンケートでは「グループワークを通して自分の考えに自信をもち、発言できるようになった」など、前向きな回答が見られ、授業中の様子からも、協働学習への抵抗感の低下と**自己有用感の高まり**が見られた。
- 資料読解や協働学習を得意とする生徒に対し、より学習意欲を喚起しながら学びを深めていくため、複数のステップを準備するなど、ステップの構成や設定について再考する必要がある。

協働学習について

人の意見を聞くと、自分にはなかった考え方や捉え方があつておもしろかったです。他人と協力し、考えを表現できるようになりました。
グループに貢献できたと思います。



自己有用感の高まりが見られる部分